

February 22, 2026

## パンと御言葉

マタイ 4:1-4

4:1 それからイエスは、悪魔の試みを受けるために、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。

4:2 そして四十日四十夜、断食をし、その後で空腹を覚えられた。

4:3 すると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」

4:4 イエスは答えられた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。」

先週の「灰の水曜日」から「レントの40日」が始まりました。レントが40日であるのは、イエスが、ヨハネからバプテスマを受けたあと、40日の間、荒野で断食をされたことから来ています。その40日の最後の日に、「試みる者」がやってきて、イエスを誘惑しました。マタイの福音書には3つの誘惑がしるされていますが、その3つには共通するものがあります。きょうはそのことから、私たちにもやってくる誘惑にどう対処すればいいかを学ぶことにしましょう。

### 一、誘惑は誰にでもやってくる

イエスが受けた誘惑を見て、まず分かることは、誘惑は誰にでもやってくるということです。イエスは、バプテスマを受けられたとき、聖霊をもお受けになりました。それは、イエスに与えられたメシア（救い主）としての任命の油注ぎでした。また、父なる神は、イエスに「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ」と呼びかけ、イエスが神の御子であることも証しされたのです。聖霊に満たされた神の御子であるイエス、し

かも 40 日の断食によって靈的に最も高められた状態のイエスにも「試みる者」が近づいてきたのです。

私たちは立派なクリスチャンを見て、「あんなに敬虔で、信仰の強い人なら、どんな誘惑もよりつかないだろう」と思うことがあります。けれども、この世にあっては、誰一人、どんな誘惑も受けない人はありません。むしろ、神に近づけば近づくほど、おそいかかる誘惑は強く巧みなものになってくるのかもしれない。多くの人々によい影響を与えている人がいれば、その人一人を罠にかけて罪を犯させれば、それによって何百人、何千人という人たちを一度に躓かせ、多くの人を信仰から引き離すことができるからです。

また、私たちも、困難があるときには、身を慎んで神に頼ろうとしますが、物事が順調に進み、祝福されていると感じ、満足を味わうとき、思わぬ落とし穴に落ち込んでしまうことがあるものです。聖書は言います。「悪魔に機会を与えないようにしなさい」（エペソ 4:27）、「機会を十分に活かしなさい。悪い時代だからです。」（エペソ 5:16）誘惑する者は機会を狙っています。私たちは、それにまさるものを持っていなければなりません。

自分の頭の上を鳥が飛ぶのを避けられないように、誘惑は、誰にもやってくるでしょう。けれども、ある人は言いました。「鳥が頭の上を飛ぶのは避けられない。しかし、鳥が頭に巣をつくらないようにすることはできる。」しかし、「頭に巣をつくらないようにする」のには、ただ用心深ければ、賢ければできるというものではありません。人間の知恵は巧妙な誘惑には力はありません。私たちにはそれ以上のもの、神からの知恵、また力が必要です。どのようにその知恵、力を得るかは最後に

お話しすることにして、まずは、イエスへの誘惑の言葉の背後にあるものを見ておきましょう。

## 二、誘惑は良いもののように見える

「誘惑」というと、私たちが犯罪や不道德なことに引っ張り込むものと考えがちです。確かに最終的にはそうなのですが、最初、それがやってくる時には、私たちにとって必要を満たすものや物事をよりよく運ぶためのよいアドバイス（提案）のように見えるものです。

イエスが受けた第一の誘惑は、「石をパンに変えて空腹を満たせばどうでしょうか」という提案でした。空腹のイエスを気遣っているようにも聞こえる言葉です。第二の誘惑は、「神殿のてっぺんから飛び降りてみなさい。天使が守ってくれるから大丈夫ですよ」というもので、イエスに安全を保証し、励ましているような響きがあります。第三の誘惑は、イエスが救い主としての使命を果たすのに、「協力しますよ」といった誘いかけです。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう」との「取引」が提案されています。この取引は、「世の救い主になりたいのなら、世と手を組んではどうでしょうか。喜んで協力しますよ。それによって、この世を、あなたと私のものにしようではありませんか。Win-Win の良いデールではありませんか」というものだったのです。

このように、誘惑は、私たちにも、「それはぜひ必要なことだからやりましょう」、「こうすれば、もっとうまくでき、必ず成功しますよ」などといった、一見、親切なアドバイスとしてやってくることがあります。しかし、そうした誘惑に乗ってしまうことによって、私たちは人々に神の救いを届けるという

一番大切な使命を果たせなくなってしまうのです。

「あなたが神の子なら、これらの石がパンになるように命じなさい。」この言葉の背後には、こんな意味が隠されています。「あなたはこれから神の言葉を伝えようとしているが、世には、その日食べる物も十分でない飢えた人で満ちているではないか。まず、彼らにパンを与えるのが、あなたの仕事ではないのか。それに、神の言葉を求める人なんてほんの僅かだ。あなたがどんなことを語っても、人は耳を傾けないだろう。けれども、パンを与えてごらん。人々は皆、あなたのあとをついて来るようになる。」しかし、イエスは、パンを与える前に、神の言葉を与えなければならないと言われて、この誘惑を退けました。

もちろん、イエスは飢えた人が空腹のまま良いとされたものではありません。イエスは飢えた人々に実際にパンをお与えになりました。初代教会も、貧しい人々のための食事会をしました。教会はずうっと、人々にパンを与える務めに励んできました。

世界規模で見たとき、死亡原因の第一位は、ガンでも心臓病でもなく、飢餓だという調査結果があります。5歳の誕生日を迎えずに、慢性的な栄養失調で亡くなっていくこどもが年間一千万人近くいます。豊かなアメリカにいると信じられないかもしれませんが、世界人口70億、80億のうち10億人、7人に一人、あるいは8人に一人が飢餓で苦しんでいます。では、この地球には、そうした人々を養う食べ物がないのでしょうか。いいえ、十分な食べ物があるのです。ただそれが偏っていて、必要な人に届けられないのです。アメリカではグロッサリーストアがひとつの町に何軒もあり、そこにはその町の人々の胃袋を

満たしてあまりあるほどの食料があります。グロッサリーストアは販売期限が切れた食べ物や薬を処分するのですが、一軒のグロッサリーストアが処分するものだけでも、飢餓に苦しみ、薬すらない小さな村全体を救うことができると言われています。また、飢餓を引き起こしている最大の原因は戦争です。田畑が荒らされ作物が作れない、救援物資があっても、戦闘区域に住む人には届けられないのです。だから飢餓が解決しないのです。

そうした矛盾の解決に取り組んできたのは、神の言葉によって生まれ変わり、生かされてきたクリスチャンでした。神の言葉が宣べ伝えられるとき、それはパンの問題をも解決する力になります。ですから、教会はいつの時代も、宣教を強調し、それを第一にしてきました。

クリスチャンは、ギャンブルに手を出したり、悪い遊びをしたりはしないでしょ。真面目に働き、良く勉強し、健全な趣味を楽しんでいます。必要のある人々への奉仕にも一所懸命です。しかし、そうした「良い」ことが、神の言葉を聞き、伝えるという「一番良いこと」を忘れさせ、妨げてしまうなら、それらは誘惑になってしまいます。そうした誘惑を退け、第一のものを第一にするとき、私たちの生活も、社会も調和のとれたものとなります。

### 三、誘惑は神の言葉で退ける

さて、最後に、きょうの箇所から誘惑を退ける方法を学びましょう。イエスは、「石をパンに変えてごらんなさい」との誘惑に対して、「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある」（4節）と

言われました。「ここから飛び降りてみなさい」との誘惑には、「『あなたの神である主を試みてはならない』とも書いてある」（7節）とお答えになりました。「もしひれ伏して私を拝むなら、これをすべてあなたにあげよう」との誘惑には、「下がれ、サタン。『あなたの神である主を礼拝しなさい。主のみ仕えなさい』と書いてある」（10節）と言われて、きっぱりとそれを退けました。

そのどれもが、「…と書いてある」で終わっています。「…と書いてある」とありますが、どこに「書いてある」のでしょうか。聖書です。しかも、どれも申命記からで、申命記の8:3、6:16、そして、6:13と10:20からの引用です。

第一の誘惑への答えは申命記8:3にあります。「それで主はあなたを苦しめ、飢えさせて、あなたも知らず、あなたの父祖たちも知らなかったマナを食べさせてくださった。それは、人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きるということを、あなたに分からせるためであった。」イエスは、この引用によって、聖書に書かれている一つ一つの言葉は、神の口から出たもので、人を生かすものであると言われました。

「神の口から出たもの」ということで思い起こすのは、創世記2:7です。「神である主は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった」とあります。神の口から出たものが人に命を与え、人を生かしました。そのように、神の言葉は、神の口から出て、私たちを新しく生まれかわらせ、その命を養うもの、命の言葉です。ペテロ第一1:23に、「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、い

つまでも残る、神のことばによるのです」とあり、同じ手紙の2:2に「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです」とある通りです。

聖書が尊ばれるのは、それが古くから伝わる書物で、世界で最もよく読まれているからではありません。それが、「神の口から出た」神の言葉だからです。聖書が「神の口から出たもの」であることは、テモテ第二 3:15-16に、次のように書かれています。「また、自分が幼いころから聖書に親しんできたことも知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えて、キリスト・イエスに対する信仰による救いを受けさせることができます。聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です。」この箇所「神の靈感による」は直訳すれば「神の口から出たもの」となります。聖書の一つひとつの言葉は神の口から出た、いのちの言葉であると教えられています。

神の言葉は、難行苦行を経て悟りを開き、やっと聞こえてくるものでも、どこか遠くにあるものでもなく、私たちの身近にあるのです。神の言葉は、一冊の本になって誰もが手にすることができるようになりました。イエスが引用された言葉は、ユダヤの子どもたちなら誰も、幼い時から、両親によって教えられ、会堂で何度も耳にし、暗唱していたものばかりでした。誰もがよく知っている基本的な聖書の言葉によって、自分の心を守り、やってくる誘惑に打ち勝つことができます。

私たちは、自分の知恵で誘惑を退けることができるほど賢くありませんし、自分の力でそれに勝てるほど強くはありません。しかし、神の言葉によってならできます。神の言葉には、

命があり、力があり、私たちに本当の知恵を与えるからです。ある人の聖書の扉に「これを守れ、これがあなたを守る」と書いてあったのを思い出します。聖書に親しむこと、それを心に蓄えること、そうした日々の積み重ねが、誘惑を退ける力となります。失望や不信仰を乗り越え、また、具体的な問題を解決する力となります。この週も、神の言葉に生かされ、神の言葉で勝利する一日一日を歩めるよう祈りましょう。

### (祈り)

父なる神さま、私たちは、パンだけで生きている存在ではありません。私たちを生かすものは、あなたの口から出る御言葉です。命の糧、神の言葉を日々に求めます。また、イエスが神の言葉に聴くことを「無くてならぬもの」と教えてくださったように、御言葉に聴き、御言葉をたましいのうちに蓄えます。御言葉によって勝利する日々を私たちに与えてください。イエス・キリストのお名前です。